

日刊 宮城新聞

九夕

印 刷 所
福島県石城郡平町猪屋町十四
行 所 納活版所
一部金貯金一ヶ月百円迄
廣告料一月十四字五十五円
▲日刊（日曜、祭日）休刊

「腹痛」もカラリと癒つて

井上縣議の憤慨談

某を鼠小僧とは痛快

近く思想講演會を起す

憲本提携といふ政治道德上許可からざる罪悪行為を病床つければ本望だとしてかかる汚知り憤怒の念遺る方がなかつた縣議井上茂作氏は床上げの八日、先づ磐城中學校卒業式場には國民の信用を失ひ自滅する事臨んで「正義や公明といふ事は火を見るより明らかな事だ。よく呼ばれてゐるが、一國の宰相は既に罪惡の限相でさへ之を行はぬ。鼠小僧の如きものが正義を稱へたて何となる。要するに人格の問題だ」と攻撃的演説をなしたが、九日

提携問題について記者に語る。

預入のみ増ええて 拂渡わ減らる

平局の郵便貯金

平郵便局に於ける二月中の取扱

▲普通郵便受一九八七〇二(一八五九〇増)配二〇七二七(二七五一〇増)

(四六減)配四六一八(四二〇減)

▲書留價格表記受三九四四(五

▲小包受一七一八(五三減)配三九六四(六六增)

▲電信發着三五七一(八四一減)九二一減)

▲電話市外へ發九七二〇(七五增)

▲為替受三五六二八圓(六九七二九一圓)

▲六一圓減(拂三一九一圓)

▲三二九圓減)

▲時金預三四八八三圓(四五四

月との比較増減數量)

▲七圓增)拂二七

尚は後任局長は東京牛込郵便局

行である。憲政會では政友會

投票數左の如し(割合内は前年二

月との比較増減數量)

するものとして睡棄しても面憎いと想像される。平局二月中の取扱行である。憲政會では政友會投票數左の如し(割合内は前年二月との比較増減數量)

にさへ政權を渡さなければよい

とある。

▲年金申込(二)

▲振替受二四四二圓(四六六

五圓減)拂二七四九七圓

七〇九圓增)

▲保険一〇三(二三減)

五八七六圓減) 五振替受二四四二圓(四六六 五圓減)拂二七四九七圓 七〇九圓增) 五年金申込(二)

銘酒屋を倒して 住吉屋本店を襲ふ 無錢飲食常習者捕はる

當時住所不定無職自稱新潟縣新

潟中である。

後任社長決定

平運輸の

平驛前公認運輸株式會社社長

鈴木雄次氏は過般死去したので

重役間で後任社長證衡中の處今

轉じて曰く、かくの如く既成政

黨は既に信用を失つてゐるが、

さりとて新黨を樹立する事は容

易でない。要是黨員を改造する

事だ。この意味で私は近思

問題研究會を起し地方各町村を

行脚する考へである……とは老

いて益々壯んではある。さるに

ても某を鼠小僧とは意味深くも

問題研究會を起し地方各町村を

行脚する考へである……とは老

いの紺サージ洋服一着(四十圓)
を盗んで逃走した事をも自白し
たので九日平檢事局に送つた。

▲双葉武道大會豫て
延期されてゐた大日本武德會福
島支部双葉分會の武道大會は來
る十三日午前八時より浪江町浪
江座に於て盛んに開會する事に
決し自下浪江警察署内の事務所
で準備を進めてゐる。

▲唐士校長歡迎會新調中である。

▲小名濱の泥棒玉川

▲運送店合同双葉郡富

岡町字神明町無職小泉龜夫(二

閏月運送業丸通大原壽郎、山三

平山清の兩氏は資本合意をなし

此の程富岡運送店を命名三月一

日より營業を開始した。

▲刈野農會總會双葉

▲運送店合同双葉郡富

岡町字神明町小泉キク方忍び入

同町字神明町無職小泉龜夫(二

閏月運送業丸通大原壽郎、山三

平山清の兩氏は資本合意をなし

此の程富岡運送店を命名三月一

日より營業を開始した。

▲双葉特信

